

地理を学ぶ基本

「百聞は一見にしかず」を養う

私の専攻科目は、教育系の地理学、とりわけ交通地理学や産業考古学という分野で、地域との関わりが戦後の歴史を通して大きく変容してきた公共交通や近代産業の盛衰を主題として、研究を進めております。私は、難しい本を読んだり理論の追求は苦手ですが、地理の勉強は、現地を見聞するフィールド調査、簡単に言えば見学旅行することが重要であり、その観点から、色々な乗り物に乗ったり、昔の街並みや古い工場、鉱山の跡などを散策して、先人の偉業を学びながら多くのことを発見して感動を覚え、それを研究の指針としてきました。今は、何かを調べるのにパソコンにたよることが多くなりましたが、「百聞は一

見にしかず」を常に認識してきました。また、その都度、関連する本や地図、時刻表などを集めてきましたが、年月がたつと、それらが貴重な研究資料になっています。

学部の授業は、交通論Ⅰ・Ⅱ、世界地誌、日本地誌を担当しています。難しい本や理論を抜きにして、旅行や資料収集を通して、多くのことを学び、現地に足を運んで自分の目で確認していく喜びを身につけさせたいと思っています。

■交通論Ⅰ
■日本地誌

■世界地誌



大島 登志彦
(おおしま としひこ)

1954年群馬県生まれ。工学部や教育学部・教育学研究科に在学して学んだ後、高等学校、高等専門学校での勤務を経て、1999年から本学経済学部勤務。